

特定非営利活動法人「市村自然塾 九州」
2018年度 理事会および通常総会

1. 日 時 2019年3月12日(火曜日)
- 理事会 午前10時
総会 午前11時
2. 場 所 「市村自然塾 九州」塾舎
佐賀県鳥栖市河内町字谷口 2212-2
3. 議案審議
- (1) 第1号議案 2018年度事業報告および決算報告の件
① 2018年度 事業報告
② 2018年度 決算報告
- (2) 第2号議案 2019年度事業計画および活動予算の件
① 2019年度 事業計画(案)
② 2019年度 活動予算(案)
- (3) 第3号議案 理事および監事選任の件



市村自然塾 九州

2018年度 事業報告書

【3月開塾までの経緯】

非営利活動法人「市村自然塾 九州」(以下、当法人)は、株式会社リコーを中心とするリコー三愛グループの創始者である市村清氏の生誕100周年を記念して、2002年1月に設立し、2003年3月から塾運営を開始しました。コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社および株式会社リコーのグループ企業・団体ならびに関係自治体や地元企業からのご支援をいただき運営しています。

2018年度については、子供達の健全育成活動(以下「自然塾活動」)を行うため、3月4日の入塾式および3月16日からの第1ステージに向けての準備から開始しました。

1. 自然塾活動の拠点となる「塾舎」については、当法人を設立した2002年の9月に完成し、主要支援先であるコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社様から無償でお借りしており、2010年および2017年に改修工事を実施していただきました。

また、塾舎のある用地については2002年9月から鳥栖市様より無償でお借りしております。

2. 自然塾活動の基盤となる「農地」については、地域の方から借受けした農地5ヶ所(約4,000㎡)を水田と畑として活用し、継続して米や野菜の農作物をつくってまいりました。
3. 自然塾活動や運営のための職員は、常勤10名(うち企業からの派遣4名)、非常勤2名を確保し、カリキュラムの内容や育成する野菜の検討、農地の整備・耕作等を行いました。
4. 2018年度の塾生(第16期生)の募集については、2017年8月より福岡県・佐賀県の教育委員会を通じて募集を依頼し、男子43名、女子47名の合計90名の応募がありました。

塾生の選考にあたっては、2017年12月23日～24日に塾舎にて本人および保護者と面談を行い、本人の意思確認を経て、男女60名の入塾を決定しました。

・応募数 90名 (男子43名、女子47名) (福岡県48名、佐賀県41名、熊本1名)

・入塾生 男子30名 (小学生29名、中学生1名) (福岡県18名、佐賀県12名)

女子30名 (小学生30名、中学生0名) (福岡県14名、佐賀県16名)

5. 運営資金については、法人・個人の正会員・賛助会員のご協力による会費3,504千円およびコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社様などからの寄付金55,726千円に、雑収入57千円を合わせた合計59,287千円を運営資金といたしました。

【内訳】

(1) 会費	①正会員(法人・個人)	3,453,000 円
	②賛助会員(法人・個人)	51,000 円
	計	<u>3,504,000 円</u>
(2) 寄付金	①コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 様	29,700,000 円
	②コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株主優待口 様	20,526,300 円
	③コカ・コーラウエスト山陽基金 様	3,000,000 円
	④公益財団法人市村清新技術財団 様	2,500,000 円
	計	<u>55,726,300 円</u>
(3) 雑収入	計	<u>56,947 円</u>

【自然塾活動の概況】

1. 全体概要

2018年3月4日に入塾式を実施し、男子30名、女子30名、合計60名の塾生を迎え入れました。3月16日を開始日とする第1ステージからは、「進んで挨拶をする」、「時間を守る」など、共同生活に必要な基本的なルールを体得させ、12月9日の卒塾式まで、男女それぞれ18ステージ(延べ110日間)の活動を実施する計画でスタートしました。

しかし、2018年度は悪天候に見舞われたため、男子の活動では第14ステージに台風24号の接近により1日活動を中止し、女子の活動では第8ステージに西日本豪雨の影響でステージ全体を中止するとともに、第14ステージには台風25号の接近で活動を2日間中止することとなりました。

そのような状況下で、全てのプログラムに参加し「完全皆勤」を達成した塾生は、男子6名・女子11名となりました。また、各ステージの3分の2以上の活動に参加した「ステージ皆勤」の塾生は、男子9名・女子16名でした。

クラブ活動や習い事などが増加しているなかで、塾生が自然塾の活動を「楽しいもの」と感じるだけでなく、「意義あるもの」とらえている結果であろうと考えています。

一方で、男女それぞれ1名が途中で退塾し、卒塾生は58名(男子29名、女子29名)となりました。

2. 農業体験活動

農業体験活動では、塾生がチームメンバーと協力しながら約40種類の農作物を自らの手で育て、活動中の食材としても活用することができました。

農作物は、病害虫に多少の被害を受けましたが、「困難なことに立ち向かってやり通すこと」、「生き物への興味・関心を持つこと」を体得し、季節の変化に応じた様々な農作業を体験してもらいました。

3. 自然体験活動

自然体験活動では、椎茸の菌打ち、ヤマメの放流、ホタルの観察、田植え前の泥んこ運動会、大木川でのリバートレッキング、天体観測、日の出拝観などを実施し、自然の仕組みを理解させ、花や風景など美しいものを見て感動できる感性を育てました。

毎年行っている九千部山登山については、西日本豪雨の影響で道路が寸断され、中止せざるを得なくなりましたが、その代りに鍛錬遠足(10km)を行い、河内地区周辺の自然の素晴らしさを感じてもらいました。

4. 共同生活

共同生活活動では、毎回ステージで2泊3日の宿泊を経験するため、身の周りの整理整頓や共同場所の清掃、農作業道具の準備と片付け、羽釜による直火炊きの炊飯、テントの設営といった日常生活で経験できないことを数多く体験してもらいました。また、河内地区の清掃ボランティア活動、味噌づくり、万歳寺での座禅体験も実施しました。

塾生には、割り当てられた仕事を何度も失敗を繰り返しながらできるようになるまでやり続け、仲間と協力して成し遂げて得られる達成感を経験してもらいました。

5. 安全対策

安全対策については、自然塾がある河内地区は市内の中心地から10kmほど離れており、救急車の到着には最短でも15分ほどかかることから、活動がスタートする前の2月にスタッフ全員が救急救命講習を受講し、AEDを使用した救急救命が施せるスキルを習得しました。

また、鳥栖市にある医療法人清明会「やよいがおか鹿毛病院」から看護師を派遣してもらい、ステージ中の塾生の体調管理や応急処置を行い、緊急時の対応も病院と連携して行いました。

6. 保護者との連携

保護者との連携については、当法人のホームページを利用して、ステージ毎の計画と活動実績を毎回掲載するとともに、塾生手帳を用いて保護者との文章のやり取りによるコミュニケーションを継続して実施し

ました。具体的には、塾からのお願いと個人別の指導ポイントを文章で記載し、保護者からのご意見を確認することを全塾生の保護者と全てのステージで毎回行いました。

また、「あしあと」と題した塾生の活動状況と塾の対応について記載した成長記録を個人別に作成し、8月下旬から9月上旬に行った親子大会および12月の卒塾式時に保護者に手渡しました。さらに、保護者ボランティアや親子大会など保護者が参加する活動の都度、情報交換を行い、関係強化・信頼関係構築に努めました。

保護者からの意見・コメントは以下のとおりです。

- ・自然塾に通いはじめて、屋外での行動が積極的になりました。
- ・自分のことは自分でできるようになり、手がかからなくなりました。
- ・整理整頓を自らするようになり、お手伝いも積極的にしてくれるようになりました。
- ・以前に比べ、言葉づかいも自分なりに考え、優しい声かけができるようになりました。
- ・言われたこと、守らなければならないことなどを周囲に伝えることも上手になりました。
- ・素直に返事をしてくれることが多くなりました。
- ・自分以外のことに目配り、気配りができるようになりました。
- ・自分がやるべきことを意識しながら行動するようになっていきます。
- ・自分の思いを言葉で伝えるようになり、心の成長を感じています。
- ・普段の生活の中でも物事にチャレンジしていく意欲が強くなったように思います。
- ・今まで見られなかったが、背筋を伸ばして自信を持った姿が見られるようになりました。
- ・親の手助けを待たず、自分で行動し、責任をもって動こうとする姿が見られるようになりました。
- ・気分による行動のムラもなくなり、思いやりのある行動が見られるようになりました。
- ・周囲の状況が見えるようになり、自分の意見も言えるようになって成長したなど感じています。
- ・集団生活を経験することで、他人のペースに合わせることを覚えたようです。
- ・他者を思いやる言動が少しずつ増えてきていることに感謝しています。
- ・スタッフさんが子どもの良いところも悪いところも良く見ていただいていることに驚き、感謝します。
- ・スタッフの方々の優しさや寛容さ、心遣いが子どもに伝わっているように思います。
- ・指導ばかりではなく、見守ったり、成長を促すような対応をしていただきありがたく思います。
- ・一般家庭では経験できない農作業を通して、本人の成長をととても感じています。
- ・自分の意見を言うこと、人の意見を聞くこと、実行することの大切さを体感しているようです。
- ・自分ひとりでは生きていけないと身をもって体験してくれているのではないかと思います。
- ・スタッフの方々、自然の環境、スポンサー企業の皆さまに感謝です。

2018年度の事業の実施概況は以下に記します。

【事業の実施概況】

実施計画	日程	実施内容																		
塾生の構成 (参加者の内訳)		(1)学年構成																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>学 年</th> <th>男子</th> <th>女子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学生</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小学6年</td> <td>10</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>小学5年</td> <td>14</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>小学4年</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	学 年	男子	女子	中学生	1	0	小学6年	10	15	小学5年	14	10	小学4年	5	5	計	30	30
		学 年	男子	女子																
		中学生	1	0																
		小学6年	10	15																
		小学5年	14	10																
		小学4年	5	5																
		計	30	30																
		(2)地域構成																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>学 年</th> <th>男子</th> <th>女子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福岡県</td> <td>18</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>12</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	学 年	男子	女子	福岡県	18	14	佐賀県	12	16	計	30	30						
学 年	男子	女子																		
福岡県	18	14																		
佐賀県	12	16																		
計	30	30																		

実施計画	日程	実施内容																		
(1) 農業体験活動	男子 3月16日～ 11月25日 女子 3月23日～ 12月2日	主な農業体験活動 ① 米づくり ・種籾の塩水選 ・温湯消毒 ・播種 ・代かき ・田植え ・除草(株かき) ・稲刈 ・結束 ・掛け干し ・脱穀 ・唐箕選 ・わら縛り ② 共同農園での野菜づくり(農作業の基礎を学ぶ) ・畑の土づくり ・畝上げ ・播種 ・苗の定植 ・芽欠き、間引き ・土寄せ ・追肥 ・除草、水やり ・支柱立て、誘引 ・鳥獣対策 ・収穫 夏・秋野菜を約40数種類栽培 (さつま芋、玉ねぎ、トマト、きゅうり、なす、かぼちゃ、ねぎ、ジャガイモ、 里芋、おくら等) ③ チーム農園での野菜づくり(チームワークを活かす) ・前作、後作の作付け計画 ・土づくり、畝上げ、播種、定植、手入れ、収穫 各チーム 約20種類を栽培																		
(2) 自然体験活動	男子 3月16日～ 11月25日 女子 3月23日～ 12月2日	主な活動内容 <table border="1"> <tr> <td>3月</td> <td>地域探索</td> </tr> <tr> <td>4月</td> <td>タグラグビー、危険予測、ヤマメの放流(女子)</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>泥んこ運動会(男子)、追跡ハイキング(女子)、 ホタルの観察</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>泥んこ運動会(女子)、追跡ハイキング(男子)、 坐禅体験、清掃ボランティア(男子)</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>塾野菜料理会、リバートレッキング、肝試し</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>親子共同農業体験</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>テント宿泊、味噌づくり(女子)</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>鍛錬遠足(九千部山登山中止)、日の出拝観、 天体観測</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>紅葉ライトアップ点灯式合唱(女子)、餅つき</td> </tr> </table>	3月	地域探索	4月	タグラグビー、危険予測、ヤマメの放流(女子)	5月	泥んこ運動会(男子)、追跡ハイキング(女子)、 ホタルの観察	6月	泥んこ運動会(女子)、追跡ハイキング(男子)、 坐禅体験、清掃ボランティア(男子)	7月	塾野菜料理会、リバートレッキング、肝試し	8月	親子共同農業体験	9月	テント宿泊、味噌づくり(女子)	10月	鍛錬遠足(九千部山登山中止)、日の出拝観、 天体観測	11月	紅葉ライトアップ点灯式合唱(女子)、餅つき
3月	地域探索																			
4月	タグラグビー、危険予測、ヤマメの放流(女子)																			
5月	泥んこ運動会(男子)、追跡ハイキング(女子)、 ホタルの観察																			
6月	泥んこ運動会(女子)、追跡ハイキング(男子)、 坐禅体験、清掃ボランティア(男子)																			
7月	塾野菜料理会、リバートレッキング、肝試し																			
8月	親子共同農業体験																			
9月	テント宿泊、味噌づくり(女子)																			
10月	鍛錬遠足(九千部山登山中止)、日の出拝観、 天体観測																			
11月	紅葉ライトアップ点灯式合唱(女子)、餅つき																			
(3) 宿泊を伴う共同生活 (2泊3日)	男子 3月16日～ 11月25日 女子 3月23日～ 12月2日	「自主・自立・自律」を身につけさせる ① 共同生活の根幹となる基本作業をできるまで何度も実行 ・挨拶、返事 ・整理整頓 ・あと片付け ・食事のとり方 ・箸の使い方 ・姿勢 ・床の拭き掃除 ・塾舎周辺の掃き掃除 ・トイレ掃除 ・入浴の仕方 ・布団の準備、片付け 等 ② 昔ながらの炊飯体験 ・米とぎ ・釜飯炊き(土曜の朝・夕、日曜の朝) ・羽釜洗い ③ 助け合うこと、協力することを体験 ・チーム活動 ・歌の合唱																		

実施計画	日程	実施内容																																												
(4)その他の事業 ①鳥栖市との共催事業	7月24日～ 25日	① 鳥栖市少年少女自然体験事業(15回目) ・鳥栖市の小学生30名を1泊2日で受入れ ・自然体験と共同生活の体験活動の場を提供 ・1日目は、交流レクリエーション、地域探索で仲間づくりを体験。 夜に萬歳寺で坐禅を行い、我慢することの大切さを学ぶ。 ・2日目は、大木川でのリバートレッキングを体験																																												
②同窓会「やまももの会」 総会の開催	8月8～9日	② 「やまももの会」総会(第14回)の実施 ・総会は男子が8月8日、女子が8月9日に開催 ・1期生～15期生、男女計92名が参加																																												
③同窓会卒業生のボラ ンティア参加	5月19日～ 12月1日	③ 卒業生のボランティア参加 ・第5ステージ(5月19日)から、10～15期生が日帰りで活動に参加 ・81名が参加(男子29名、女子52名)																																												
④主要支援企業による 活動援助	6月、12月	④ コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社による活動援助 ・主要支援企業のコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社の担当役員他幹部社員が6月の田植え(4名)、12月の餅つき(7名)に参加。 ・来塾記念にヤマボウシ(花言葉:友情)を植樹していただく。																																												
(5)会員の状況	2018年 12月末現在	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">法人</th> <th colspan="2">前年比</th> <th colspan="2">個人</th> <th colspan="2">前年比</th> </tr> <tr> <th>社数</th> <th>口数</th> <th>社数</th> <th>口数</th> <th>人数</th> <th>口数</th> <th>人数</th> <th>口数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正会員</td> <td>52</td> <td>113</td> <td>▲1</td> <td>±0</td> <td>17</td> <td>21</td> <td>▲2</td> <td>▲2</td> </tr> <tr> <td>賛助会員</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>▲1</td> <td>▲2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>+1</td> <td>+2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>58</td> <td>122</td> <td>▲2</td> <td>▲2</td> <td>19</td> <td>25</td> <td>▲1</td> <td>±0</td> </tr> </tbody> </table>		法人		前年比		個人		前年比		社数	口数	社数	口数	人数	口数	人数	口数	正会員	52	113	▲1	±0	17	21	▲2	▲2	賛助会員	6	9	▲1	▲2	2	4	+1	+2	計	58	122	▲2	▲2	19	25	▲1	±0
	法人			前年比		個人		前年比																																						
	社数	口数	社数	口数	人数	口数	人数	口数																																						
正会員	52	113	▲1	±0	17	21	▲2	▲2																																						
賛助会員	6	9	▲1	▲2	2	4	+1	+2																																						
計	58	122	▲2	▲2	19	25	▲1	±0																																						
(6)2019年度 塾生募集活動	8月16日～ 11月30日	① 佐賀県、佐賀市、鳥栖市、福岡県、福岡市、北九州市の各教育委員会を通じて学校へ案内 佐賀県、佐賀市、鳥栖市 小・中:264校、 福岡県、福岡市、北九州市及び周辺市小・中:1,008校 応募パンフレット 13,000部 ポスター 1,500部配布 ② 会員企業への訪問依頼 社員の子息に対する募集案内の依頼 ③ 応募数76名(男子:36名、女子:40名) 福岡 36名、佐賀 40名																																												

〈第1号議案〉2018年度 事業報告および決算報告の件 ②

活動計算書

2018年1月1日から2018年12月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
法人正会員受取会費	3,390,000	
個人正会員受取会費	63,000	
法人賛助会員受取会費	45,000	
個人賛助会員受取会費	6,000	3,504,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金		55,726,300
3. その他収益		
受取利息	801	
雑収益	56,146	56,947
経常収益計		59,287,247
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	16,870,663	
賃金	5,947,876	
法定福利費	1,663,842	
人件費計	24,482,381	
(2) その他経費		
教材費	696,203	
器具備品費	536,004	
燃料費	114,637	
図書資料費	99,371	
保健衛生費	98,036	
食材費	1,648,570	
旅費交通費	75,910	
通信運搬費	470,354	
消耗品費	1,428,131	
水道光熱費	1,307,889	
賃借料	2,135,235	
印刷製本費	1,919,728	
保険料	50,089	
教育研修費	33,000	
その他経費計	10,613,157	
事業費計		35,095,538
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	13,792,485	
人件費計	13,792,485	
(2) その他経費		
旅費交通費	272,670	
福利厚生費	2,438,640	
通信運搬費	67,494	
消耗品費	405,617	
水道光熱費	326,974	
賃借料	134,783	
会議費	45,657	
渉外費	140,568	
修繕費	1,869,888	
支払手数料	134,798	
保守費	1,490,449	
減価償却費	16,589	
雑費	114,487	
その他経費計	7,458,614	
管理費計		21,251,099
経常費計		56,346,637
当期正味財産増減額		2,940,610
前期繰越正味財産額		6,498,956
次期繰越正味財産額		9,439,566

活動計算書の主な増減要因

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差異	増減要因
I 経常収益				
1. 受取会費				
法人正会員受取会費	3,390,000	3,390,000	-	
個人正会員受取会費	69,000	63,000	△ 6,000	
法人賛助会員受取会費	55,000	45,000	△ 10,000	
個人賛助会員受取会費	3,000	6,000	3,000	
2. 受取寄付金				
受取寄付金	50,200,000	55,726,300	5,526,300	CCBJIH株主優待口の増加
3. その他収益				
受取利息	1,000	801	△ 199	
雑収益	30,000	56,146	26,146	
経常収益計	53,748,000	59,287,247	5,539,247	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
給料手当	17,336,000	16,870,663	△ 465,337	スタッフ欠員による減
賃金	6,012,000	5,947,876	△ 64,124	
法定福利費	2,569,000	1,663,842	△ 905,158	労働保険料前年過払いによる減
人件費計	25,917,000	24,482,381	△ 1,434,619	
(2) その他経費				
教材費	709,000	696,203	△ 12,797	
器具備品費	370,000	536,004	166,004	電話交換の主装置代
燃料費	100,000	114,637	14,637	
図書資料費	112,000	99,371	△ 12,629	
保健衛生費	96,000	98,036	2,036	
食材費	1,946,000	1,648,570	△ 297,430	台風でステージ中止による減
旅費交通費	85,000	75,910	△ 9,090	
通信運搬費	419,000	470,354	51,354	
消耗品費	512,000	1,428,131	916,131	塾生用グッズ作成
水道光熱費	1,170,000	1,307,889	137,889	
賃借料	1,809,000	2,135,235	326,235	車両再リース契約料の予算誤り
印刷製本費	1,997,000	1,919,728	△ 77,272	
修繕費	75,000	-	△ 75,000	
保険料	60,000	50,089	△ 9,911	
教育研修費	25,000	33,000	8,000	
その他経費計	9,485,000	10,613,157	1,128,157	
事業費計	35,402,000	35,095,538	△ 306,462	
2. 管理費				
(1) 人件費				
給料手当	14,640,000	13,792,485	△ 847,515	出向者の人事制度変更による減
人件費計	14,640,000	13,792,485	△ 847,515	
(2) その他経費				
旅費交通費	366,000	272,670	△ 93,330	関東出張1名減
福利厚生費	2,427,000	2,438,640	11,640	
通信運搬費	67,000	67,494	494	
消耗品費	226,000	405,617	179,617	
水道光熱費	300,000	326,974	26,974	
賃借料	139,000	134,783	△ 4,217	
会議費	50,000	45,657	△ 4,343	
渉外費	130,000	140,568	10,568	
修繕費	294,000	1,869,888	1,575,888	防球ネット修繕、光回線工事
支払手数料	123,000	134,798	11,798	
保守費	1,286,000	1,490,449	204,449	汚泥収集運搬費の予算漏れ
減価償却費	84,000	16,589	△ 67,411	
雑費	122,000	114,487	△ 7,513	
その他経費計	5,614,000	7,458,614	1,844,614	
管理費計	20,254,000	21,251,099	997,099	
経常経費計	55,656,000	56,346,637	690,637	
当期正味財産増減額	△ 1,908,000	2,940,610	4,848,610	
前期繰越正味財産額	6,498,000	6,498,956	956	
次期繰越正味財産額	4,590,000	9,439,566	4,849,566	

貸 借 対 照 表

2018年12月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	10,174,825		
仮払金	34,000		
流動資産合計		10,208,825	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
器具備品	3,994		
有形固定資産計	3,994		
(2)投資その他の資産			
周年記念積立預金	5,000,000		
投資その他の資産計	5,000,000		
固定資産合計		5,003,994	
資産合計			15,212,819
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	5,291,465		
預り金	481,788		
流動負債合計		5,773,253	
負債合計			5,773,253
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		6,498,956	
当期正味財産増減額		2,940,610	
正味財産合計			9,439,566
負債及び正味財産合計			15,212,819

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日、2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会）を採用している。

（1）固定資産の減価償却の方法

有形・無形固定資産 法人税法に定める耐用年数をもとに定額法によっている。

（2）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理については、税込方式を採用している。

2. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科 目	期首取得価額	取 得	減 少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
器具備品	399,000	-	-	399,000	△ 395,006	3,994
無形固定資産						
ソフトウェア	378,000	-	-	378,000	△ 378,000	-
投資その他の資産						
周年記念積立預金	4,000,000	1,000,000	-	5,000,000	-	5,000,000
合 計	4,777,000	1,000,000	-	5,777,000	△ 773,006	5,003,994

財 産 目 録

2018年12月31日現在

(単位：円)

I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手許現金	171,925		
西日本シティ銀行 普通預金	9,966,790		
西日本シティ銀行 普通預金	2,580		
福岡銀行 普通預金	17,606		
佐賀銀行 普通預金	15,924		
仮払金	34,000		
流動資産合計		10,208,825	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
什器備品	3,994		
有形固定資産合計	3,994		
(2) 投資その他の資産			
周年記念積立預金			
西日本シティ銀行 定期預金	5,000,000		
投資その他の資産合計	5,000,000		
固定資産合計		5,003,994	
資産合計			15,212,819
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	5,291,465		
預り金			
源泉所得税	74,838		
社会保険料	383,850		
住民税	23,100		
流動負債合計		5,773,253	
負債合計			5,773,253
正味財産			9,439,566

監 査 報 告

2018年度の決算監査を実施しましたので、以下の通り報告致します。

監査の結果、事業報告および会計に関する処理は適正であることを認めます。

2019年2月14日

監 事 宮 木 博 吉



監 事 江 副 友 祐



2019年度 事業計画書(案)

1. 事業活動方針

基本理念、指導方針に基づき、塾生諸君へのメッセージにある内容を具体的に実行していく。

(1) 基本理念

『生きる力を大地から学ぶ』
 自然の助けを借りながら
 共に考え、知恵を働かせ
 自らの汗を流し
 自らが成長する

(2) 指導方針

①生活面での心得や作業方法などの基本的事項ならびに安全作業や危険行為などの重要事項は指導するが、基本は体験を通して自らが気づき、学びにつなげる。

②「指示しすぎず」「命令しすぎず」「教えずすぎず」「世話をやきすぎず」を基本姿勢として、自主性を引き出し、自らの行動につなげる。

③指導にあたっては、「共に動き、共に考え、共に学ぶ」という基本姿勢を大事にして育成支援を行う。

(3) 塾生諸君へのメッセージ (市村自然塾創始者 浜田 広)

土に触れ 土を耕し
 植物を育て 植物に囲まれ
 自然の恵みを全身で受ける。
 身体を動かし 汗をかく
 勤労の気持ちよさ
 ゆっくり深呼吸をする
 よく噛んで 残さずいただく
 友達と助け合う。

2. 事業の実施に関する事項

◆自然塾事業

2019年度は、男子の4年生が10名となり、例年に比べ高学年の塾生が少なくなることから、従来に比べより一層活動の目的および作業の仕方や留意点を丁寧に指導し、「自ら進んで行う、人に頼らない、人に流されない」といったいわゆる「自主性・自立性・自律性」を育む指導を強化していく。

(1) 事業内容

- ①農業体験活動 子供たち自らの手で行う農作物の栽培／共同農園・チーム農園・田んぼ
- ②自然体験活動 リバートレッキング、天体観測(星・月の観察)、ホテルの観察、日の出拝観 など
- ③宿泊を伴う共同生活 挨拶、返事、清掃、整理整頓、食事、布団の片づけ、入浴、釜飯炊き など
チームワーク構築のためのプログラム、歌の合唱
- ④ボランティア活動 「鳥栖市民の森」や河内地区での清掃作業 など

(2) 対象者

一般公募した小学4年生から中学1年生までの児童・生徒 男子30名・女子30名

●学年構成

	2019年度(第17期)			前年比(2019-2018年)		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
中学1年	1	0	1	0	0	0
小学6年	6	10	16	▲3	▲5	▲8
小学5年	13	15	28	▲2	5	3
小学4年	10	5	15	5	0	5
合計	30	30	60	0	0	0

●地域構成

	2019年度(第17期)			前年比(2019-2018年)		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
福岡県	20	10	30	2	▲4	▲2
佐賀県	10	20	30	▲2	4	2
合計	30	30	60	0	0	0

(3) 活動の期間

①入塾式(男女合同)	2019年3月10日(日)
②男子活動期間	2019年3月15日(金)～11月24日(日)
③女子活動期間	2019年3月22日(金)～12月1日(日)
④卒塾式(男女合同)	2019年12月8日(日)

- ・隔週金曜の夕刻から日曜の昼まで塾に宿泊し、活動を行う。
- ・2泊3日の活動を男女とも年間18回実施する。

(4) 活動の場所

佐賀県鳥栖市河内町字谷口 2212-2
「市村自然塾 九州」塾舎および隣接借用農地5ヶ所他
塾舎周辺の施設 (コカ・コーラボトラーズジャパン鳥栖市民の森、萬歳寺、大山祇神社など)

(5) 従事者予定人数

常勤 10人	企業からの出向者(4名)、契約社員(5名)、アルバイト(1名)
非常勤3人	栄養士および調理人(2名)、看護師(1名)

(6) 主な活動

①1～3月

本年度の活動計画の立案とそれらの活動準備を行う。
農作物の栽培、自然体験、共同生活、環境ボランティア、地域との交流など

②3月～11月

- ・農業体験活動 共同農園・チーム農園・田んぼでの農作物の栽培活動
田畑の手入れ(くん炭、牛ふん堆肥、耕起)
作物の植付等による40種類程度の野菜の栽培
収穫作業、堆肥づくりなど
- ・自然体験活動 地域探索、ヤマメの放流、泥んこ運動会
ホテルの観察、リバートレッキング、天体観測、日の出拝観登山など
- ・共同生活 挨拶の仕方、食事づくり、あと片付け、共同場所清掃、収穫祭、味噌づくり
座禅会と万歳寺清掃、塾野菜料理会、親子大会など
- ・ボランティア活動 塾舎周辺の清掃活動
コカ・コーラボトラーズジャパン鳥栖市民の森、大山祇神社、河川プール周辺など

(7) その他の活動

①鳥栖市「青少年自然体験事業」の開催(16回目の開催)

- ・鳥栖市教育委員会からの依頼を受け、市村自然塾九州スタッフが運営協力。
- ・清流体験などの自然体験活動や共同生活を通じて、子供たちの自発性と協調性を高めるという鳥栖市教育委員会生涯学習課の活動支援。
- ・鳥栖市内の小学生男女30人での1泊2日の自然体験活動。
- ・開催時期は夏休みの平日(7月23日～24日)を予定。

②「やまももの会」総会の開催(15回目の開催)

- ・卒塾生(921名)の親睦を深め、交流を通して互いに学びあうことが目的。
- ・開催時期は夏休みの平日(男子:8月7日、女子:8月8日)を予定。

◆事業運営にあたって解決すべき課題

(1) 農地の土壌改良(休閑地のローテーション)

①2018年度の振り返り

- ・2018年度は、以前チーム農園で活用してきたエリア(かき)を一年間休ませ、大豆・蓮華草などの緑肥や牛糞などの元肥を施すことで、連作障害による発育不良を改善すべく土壌改良と農地活用の見直しを行った。
- ・また、毎年行っている土壌診断を継続するとともに、リン酸・カリウム・カルシウムを抑制し、牛糞堆肥や籾殻などを活用して有機微生物を増やすことで団粒構造の促進、病原菌の発生防止を図った。
- ・夏場(7月・8月)の豪雨や台風接近に伴う影響はあったものの、天気予報をステージの都度確認し、プログラムを柔軟に変更することで、野菜と米の両方でほぼ計画通りの収穫量を確保することができた。

②2019年度の活動

- ・2019年度は、従来のチーム農園エリア(かき)を段階的に農地に復活させ、男子のチーム農園として活用する。
- ・東側の共同農園(くり)については、水はけが悪く日照時間も短いことから生育不良となり病害虫も多く発生していることから、一部休閑地とすることで農地の土壌改良を進めていく。

(2) 塾生応募者の拡充

①2018年度の振り返り

- ・2018年度は塾生募集期間を3ヵ月間とした前年と同様に8月中旬までに応募書類(ポスター・パンフレット)を作成し、福岡県・佐賀県の小学校・中学校の学校長宛の案内を実施した。
- ・当法人の活動に理解を深めてもらうため、学校長が集まる会議に出席し、説明機会をもらう活動も行ったが、実際に説明できたのは佐賀県の校長会での説明に留まり、十分な広報活動には至らなかった。
- ・また、入塾式や卒塾式さらに泥んこ運動会等の催事の都度、新聞やテレビの報道各社へ取材要請をしたが、対応してもらえたのは数社のみで広報面で強化できたとは言い難い。
- ・一方で、親子大会や保護者ボランティアなど16期生の保護者に対する塾生の募集協力を行い、ホームページを継続して活用したことで、OB、OGを含めた塾生や保護者の紹介による見学や応募者につながった。

②2019年度の活動

- ・昨年度に引き続き、ホームページや応募パンフを活用し、学校訪問と企業訪問を強化する。
- ・OBを含めた保護者に協力を依頼し、口コミでの応募者拡大を進めていく。
- ・広報面では、新聞・雑誌・ローカルテレビの取材依頼を進めていく。

③参考…応募者数の推移

年度	人数	男女別人数	対前年比
2015年	96名	(男子 54名 女子 42名)	▲8名
2016年	97名	(男子 46名 女子 51名)	+1名
2017年	78名	(男子 34名 女子 44名)	▲19名
2018年	90名	(男子 43名 女子 47名)	+12名
2019年	76名	(男子 36名 女子 40名)	▲14名

(3) やまももの会メンバーの連絡先と運営方法の整備

①現状の問題点

- ・OB、OGで構成される「やまももの会」は、「相互に学び合い成長し合うこと」「現役塾生および当法人の活動支援」を主目的として設立当初から発足し、今年度末には1,000名に近い構成メンバー(981名)になる見込み。
- ・運営面では、当法人が事務局を務めているものの、メンバーの自主自立の精神を尊重してきたため、設立当初から大きな見直しは行わず、従来からの運営方法を継続してきた。
- ・一方で、進学・就職・転居などによって連絡先が不明のメンバーも増加してきた。

②2019年度の活動

- ・「やまももの会」の存続と現状の問題点を考慮すると、運営面での整備、改善を進めていく必要がある。
- ・整備、改善が必要となるポイントは以下の4点とする。
 - 1) 連絡先を含めた名簿の整備(連絡先不明者の確認)
 - 2) 運営担当者の見直し(各期ごとの代表者と運営責任者の区分)
 - 3) 「やまももの会」会則の見直し
 - 4) 「やまももの会」代表者、運営責任者の見直し

<第2号議案> 2019年度 事業計画および活動予算の件 ②

2019年度 活動予算書(案)

2019年1月1日から2019年12月31日まで

(単位:円)

科 目	金額	収益・費用の主な内訳
I 経常収益		
1. 受取会費		
法人正会員受取会費	3,390,000	53社 113口×@ 30,000円
個人正会員受取会費	63,000	17名 21口×@ 3,000円
法人賛助会員受取会費	45,000	6社 9口×@ 5,000円
個人賛助会員受取会費	6,000	2名 4口×@ 1,500円
2. 受取寄付金		
受取寄付金	50,500,000	ココ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 25,000,000 ココ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株主優待口 20,000,000 ココ・コーラウエスト山陽基金 3,000,000 公益財団法人市村清新技術財団 2,500,000
3. その他収益		
受取利息	1,000	預金利息
雑収益	45,000	中山間地農業補助 他
経常収益計	54,050,000	
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	17,762,000	職員給与(除く、塾頭・事務局長・事務スタッフ)
賃金	6,057,000	管理栄養士、調理士、看護師の人材派遣費用
法定福利費	2,030,000	社会保険料、労働保険料 等
人件費計	25,849,000	
(2) その他経費		
教材費	774,000	種・苗・堆肥、もの作り・体験活動 等の活動教材
燃料費	122,000	ガソリン代、灯油代
図書資料費	74,000	書籍・新聞購読料 等
保健衛生費	121,000	日用品、医薬品 等
食材費	1,648,000	活動時における食事の食材
旅費交通費	77,000	塾生送迎交通費、研修 等
通信運搬費	475,000	電話料金、郵送費、宅配費 等
消耗品費	446,000	事務用消耗品、厨房関係消耗品 等
水道光熱費	1,309,000	電気、ガス料金
賃借料	2,123,000	車両、寝具リース、農地、機械借用料 等
印刷製本費	1,998,000	コピー代、塾生募集パンフレット、卒塾アルバム 等
修繕費	80,000	活動用機器の修繕費
保険料	23,000	看護師、OB・OG野外活動参加時の保険 等
教育研修費	15,000	外部研修参加費
その他経費計	9,285,000	
事業費計	35,134,000	
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	15,239,000	職員給与(塾頭、事務局長、事務スタッフ)
人件費計	15,239,000	
(2) その他経費		
旅費交通費	297,000	出張旅費、交通費
福利厚生費	2,270,000	単身職員借上寮、定期健康診断料 等
通信運搬費	73,000	電話、携帯電話、切手 等
消耗品費	107,000	事務用消耗品 等
水道光熱費	331,000	電気、ガス料金
賃借料	274,000	パソコンリース 等
会議費	50,000	会議時の飲食費用
渉外費	140,000	地域との懇親、来塾者との飲食費 等
修繕費	320,000	設備機器の修繕費用
支払手数料	175,000	振込手数料・残高証明 等
租税公課	2,000	収入印紙代
保守費	1,686,000	警備保守、防火管理、浄化槽管理、空調管理 等
雑費	141,000	会計サポート、玉串料 他
減価償却費	4,000	器具備品減価償却費
その他経費計	5,870,000	
管理費計	21,109,000	
経常費用計	56,243,000	
当期正味財産増減額	△ 2,193,000	
前期繰越正味財産額	9,439,566	含む周年記念積立預金(5,000千円)
次期繰越正味財産額	7,246,566	

活動予算書(案)の主な増減要因

(単位：円)

科 目	2018年 実績	2019年 予算(案)	差異	増減要因
I 経常収益				
1. 受取会費				
法人正会員受取会費	3,390,000	3,390,000	0	
個人正会員受取会費	63,000	63,000	0	
法人賛助会員受取会費	45,000	45,000	0	
個人賛助会員受取会費	6,000	6,000	0	
2. 受取寄付金				
受取寄付金	55,726,300	50,500,000	△ 5,226,300	C C B J I 寄付金の減 (5,000千円)
3. その他収益				
受取利息	801	1,000	199	
雑収益	56,146	45,000	△ 11,146	
経常収益計	59,287,247	54,050,000	△ 5,237,247	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
給料手当	16,870,663	17,762,000	891,337	スタッフ欠員補充による増
賃金	5,947,876	6,057,000	109,124	
法定福利費	1,663,842	2,030,000	366,158	2018年に前年度の過払金を戻入
人件費計	24,482,381	25,849,000	1,366,619	
(2) その他経費				
教材費	696,203	774,000	77,797	
器具備品費	536,004	0	△ 536,004	購入予定無し
燃料費	114,637	122,000	7,363	
図書資料費	99,371	74,000	△ 25,371	
保健衛生費	98,036	121,000	22,964	
食材費	1,648,570	1,648,000	△ 570	
旅費交通費	75,910	77,000	1,090	
通信運搬費	470,354	475,000	4,646	
消耗品費	1,428,131	446,000	△ 982,131	2018年塾生用グッズ作成の影響
水道光熱費	1,307,889	1,309,000	1,111	
賃借料	2,135,235	2,123,000	△ 12,235	
印刷製本費	1,919,728	1,998,000	78,272	塾生応募書類(ポスター)の見直し
修繕費	0	80,000	80,000	
保険料	50,089	23,000	△ 27,089	
教育研修費	33,000	15,000	△ 18,000	
その他経費計	10,613,157	9,285,000	△ 1,328,157	
事業費計	35,095,538	35,134,000	38,462	
2. 管理費				
(1) 人件費				
給料手当	13,792,485	15,239,000	1,446,515	出向者の人事制度変更による増
人件費計	13,792,485	15,239,000	1,446,515	
(2) その他経費				
旅費交通費	272,670	297,000	24,330	
福利厚生費	2,438,640	2,270,000	△ 168,640	2018年スタッフ用衣類作成の影響
通信運搬費	67,494	73,000	5,506	
消耗品費	405,617	107,000	△ 298,617	2018年電話機交換の影響
水道光熱費	326,974	331,000	4,026	
賃借料	134,783	274,000	139,217	ノートパソコン更新による増
会議費	45,657	50,000	4,343	
渉外費	140,568	140,000	△ 568	
修繕費	1,869,888	320,000	△ 1,549,888	2018年防球ネット修繕の影響
支払手数料	134,798	175,000	40,202	
租税公課	0	2,000	2,000	
保守費	1,490,449	1,686,000	195,551	ホームページサーバー変更による増
雑費	114,487	141,000	26,513	
減価償却費	16,589	4,000	△ 12,589	
その他経費計	7,458,614	5,870,000	△ 1,588,614	
管理費計	21,251,099	21,109,000	△ 142,099	
経常経費計	56,346,637	56,243,000	△ 103,637	
当期正味財産増減額	2,940,610	△ 2,193,000	△ 5,133,610	
前期繰越正味財産額	6,498,956	9,439,566	2,940,610	
次期繰越正味財産額	9,439,566	7,246,566	△ 2,193,000	※含む周年記念積立預金(5,000千円)

〈第3号議案〉 理事および監事選任の件

2018年度
理事 および 監事(現体制)

理事

	氏 名	備考
代表理事	柴田 暢雄	コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
副代表理事	松尾 哲吾	松尾建設株式会社 代表取締役社長
副代表理事	川原 唯司	リコージャパン株式会社 執行役員 販売事業本部 中国・九州地域担当
理事	稲川 晶子	コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 CSV推進部 担当部長
理事	呉藤 徹	株式会社佐電工 代表取締役専務
理事	阿部 哲嗣	株式会社リコー サステナビリティ推進本部 社会環境室長
理事	門谷 聡一	佐賀ガス株式会社 代表取締役社長

監事

	氏 名	備考
監事	宮木 博吉	株式会社アペックス西日本 監査役
監事	江副 友祐	リコージャパン株式会社 経営企画事業本部 福岡ビジネスサポートグループリーダー

2019年度
理事および監事(新体制案)

理事

	氏名	備考	
代表理事	柴田 暢雄	コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社	再任
副代表理事	松尾 哲吾	松尾建設株式会社 代表取締役社長	再任
副代表理事	川原 唯司	リコージャパン株式会社 執行役員 販売事業本部 中国・九州地域担当	再任
理事	稲川 晶子	コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 CSV推進部 担当部長	再任
理事	呉藤 徹	株式会社佐電工 代表取締役専務	再任
理事	阿部 哲嗣	株式会社リコー サステナビリティ推進本部 社会環境室長	再任
理事	門谷 聡一	佐賀ガス株式会社 代表取締役社長	再任

監事

	氏名	備考	
監事	宮木 博吉	株式会社アペックス西日本 監査役	再任
監事	江副 友祐	リコージャパン株式会社 経営企画事業本部 福岡ビジネスサポートグループリーダー	再任

定款より

第4章 役員および職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

(1) 理事 5人以上10人以内

(2) 監事 1人以上2人以内

2 理事のうち1人を代表理事とし、2名以内の副代表理事を置くことができる。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 代表理事及び副代表理事は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

以上